「納税のその先で」

福岡市立香椎第３中学校
椎野　早咲

たった今、目の前で人がたおれました。あなたは助けますか。「当然だ。」と思う人もいるでしょう。しかし、それは本当に当然のことなのでしょうか。

今の時代何をするにもお金が必要です。食べ物、着る物、住む場所、最低限の生活をするにも必ずお金がいります。それは、人を助けるときもまた然りです。先程の例でいくと、まず救急車を呼び、AED をもってくるとします。誰もお金を払わなくても出来ました。しかし、実際はそれにもお金がかかります。車や器具はお金がなければ手に入りません。しかし、日本であれば無償です。そのお金はどこから来たのでしょう。

では、これがもっと大規模だったらどうでしょう。

今から８年前、忘れもしない大災害、東日本大震災が起きました。二次災害もあり、この大災害での死者は一万五千人以上にものぼりました。今でもその傷跡は残っています。このとき自衛隊、消防、警察がうごいたことで何千人もの命が助かりました。その後も被災者の方に支援をする必要があります。やはりここでも、救助のための移動手段として車や船、ヘリコプターなどが使われたり、仮設住宅を建て被災者の方の生活を保障したり、復興に向けて、瓦礫の処分、水道、電気などの生活基盤を整えたりといくらでもできることがあります。２０１１年～２０１５年までで使われた金額はなんと、２９兆円にもなるそうです。これはとても、私達個人が負担出来るような金額ではありません。そのお金はどこからきたのでしょう。

それはまぎれもない税金です。皆で出し合って皆で使うと決めたお金です。災害大国とまで言われる日本です。この先も台風、噴火、地震が起き、助けが必要なときがくるでしょう。税金は必要ないと思っている人にも、有名人のあの人にも、そして私にも助けが必要なときが来ます。その理由が老後の年金だろうと、災害だろうと、子供のためであろうと、助けが必要なときはくるのです。そんなときに、あなたが、あの人が、私が払った税金があるから今日も誰かを助けられるのです。

日本の言葉に「お互い様」という言葉があります。外国にはない言葉です。困ったときはお互い様。そこに、私はこれだけやってあげたのに、あの人はあれだけ、なんてことはないのです。

税金が負担になっていて払いたくないと思う気持ちは理解できます。しかし、私やあなたは目の前で人がたおれていたら助けます。本来、納税とはその行為となんら変わりないのです。

税金の在る意味を考え、誰かを助ける事が出来ると知れば、明日払う消費税が誇らしくなります。私達は、納税のその先の誰かを助けることが出来るのです。